

地域の未来を担う金融教育 ～みんなで「お金との付き合い方」を考えよう～

業務部 和田 海星

- 子どもから高齢者まで、お金に関する悩みは尽きないと思いますが、その悩みに向き合い、解決していくことで、自分自身そして地域社会が、より豊かになっていきます。
- 地方銀行は、お金との付き合い方に関する皆さんの悩みを少しでも解消すべく、様々な取り組みを行っています。
- 皆さんも、豊かな生活の実現に向け、お金との正しい付き合い方を身につける第一歩を踏み出してみませんか。

はじめに

小学生 A 「おじいちゃん、おばあちゃんがくれたお年玉、そろそろなくなってきちゃった」

中学生 B 「今月は、友達に付き合ってお菓子を買い過ぎた。新作ゲームは買えそうにないな」

大学生 C 「推し活の軍資金が足りない。バイトを増やさなきゃ」

社会人 D 「生まれてくる子どもの名前をどうしよう。そういえば、子どもが大きくなるまでに、どのくらいお金がかかるんだろう？」

社会人 E 「勤続35年、そろそろ退職だが、年金だけで足りるだろうか？」

子どもから高齢者まで、お金に関する悩みは尽きないようです。左の例では、小中学生や大学生は、過去の自分のお金の使い方を後悔しているようであり、2人の社会人も、将来に対して不安がありそうです。

このように、具体的な悩みはそれぞれ異なりますが、全てに共通するのは、「お金との付き合い方」に関する悩みであるということです。

本レポートでは、お金との付き合い方に関する皆さんの悩みを少しでも解消すべく、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、様々なイベント・セミナー等を開催している地方銀行3行の取り組みを紹介します。

楽しみながらお金や金融を学ぼう！～秋田銀行「親子でチャレンジ！あきぎんワクワク探検隊」～

～親子に人気！あきぎんワクワク探検隊～

秋田銀行は、金融に関するノウハウを活用して、次の世代の育成・支援を行いたいと、2008年夏から、「親子でチャレンジ！あきぎんワクワク探検隊」（以下、あきぎんワクワク探検隊）を開催しています。お金の役割や大切さ、金融の仕組みや銀行業務等について、親子で楽しみながら学んでもらうイベントです。普段、子どもたちがなかなか足を運ぶことのない銀行を身近に感じてもらうとともに、夏休みの思い出作りの場にもなっています。

「あきぎんワクワク探検隊」の人気は年々高まっています。開催の周知と参加者の募集は、秋田銀行のウェブサイトやSNSがメインですが、募集開始前に「今年は開催するのか？」という問い合わせが寄せられるほど人気で、2024年は、募集開始から約1週間で受付を終了しました。中には、秋田市外から車で1時間かけて参加してくれた親子もいたそうです。

～探検隊員として、お金や金融について楽しく学ぼう！～

この「あきぎんワクワク探検隊」ですが、2008年のスタートからしばらくは秋田銀行の本店で開催していました。そこでは、「1億円を持ち上げる」、「紙幣を手で数える（いわゆる札勘）」、「お金や銀行業務に関するチーム対抗早押しクイズ」といった企画が人気だったそうです。

2023年からは、地域に根差す地方銀行として、地元の方々にも、自らの歴史に少しでも触れてほしいと考え、旧秋田銀行本店である赤れんが郷土館で開催しています。



▲ 探検隊員に扮した行員が、金融クイズを出題。秋田銀行ウェブサイト (<https://www.akita-bank.co.jp/>) より。

「あきぎんワクワク探検隊」のポイントは、なんといつでも「探検隊」であるということ。進行役の2名の行員は、「隊長」と「副隊長」として、探検服を着用して会場に登場します。探検隊への入隊式から始まり、赤れんが郷土館の外観やロビー、旧頭取室、金庫室等を見学。そして、親子参加型の金融クイズ、計画的なお金の使い方を学ぶため



▲ 秋田銀行の独自ボードゲーム。秋田銀行提供。

の独自ボードゲーム等、様々なイベントを経て、解散式に至るまで、子どもたちに楽しみながらお金の金融について学んでもらいます。

銀行が実施している親子向けイベントは、小学校4年生以上が対象となっているものが多いようですが、「あきぎんワクワク探検隊」は、1～6年生を対象に、幅広い年齢の子どもたちに楽しんでもらうために様々な工夫を凝らしています。例えば、クイズ問題については、簡単すぎると高学年には退屈ですし、難しすぎると低学年には面白くなくなってしまいますので、難易を織り交ぜながら進めます。また、プログラムの内容も、例えば2024年は、新しくなったお札の紹介や、お金の役割に関するレクチャーを入れるなど、毎年参加者の声を踏まえた見直し・ブラッシュアップを図っているとのこと。2025年も夏に開催が予定されています。どのような企画になるのか、今から楽しみですね。

秋田市が誇る歴史的建造物 — 赤れんが郷土館

秋田市「赤れんが郷土館」は、赤れんが館・新館・収蔵庫の3つの建物から構成されています。このうちの赤れんが館は、旧秋田銀行本店として1909年に着工、1912年に完成した建物で、営業室、頭取室、金庫室、貴賓室などがありました。1981年に秋田市に寄贈・修復後、1994年に国の重要文化財に指定されています。



▲ 秋田市ウェブサイト (<https://www.city.akita.lg.jp/kan-ko/kanrenshitsu/1003617/1009785/1002316.html>) より。

全国各地で明治時代から昭和時代にかけて建築され、かつて銀行の本店や支店として使われていた歴史的建造物は、今でも多くが記念館や郷土館として大切に残されています。皆さんも、お近くの歴史的建造物を探検してみたいはいかがでしょうか？



▲ 秋田市観光・イベント情報総合サイトアキタッチ プラス (<https://www.akita-yulala.jp/see/692>) より。

～より豊かな生活の実現に向けて～

秋田銀行は、ワクワク探検隊以外にも、小中学校・高校・大学への出前授業や、高校生向け金融クイズ大会の開催、地方公共団体および地域企業の従業員向け金融セミナー等を行っています。

秋田銀行の担当者は、「小学生は、お年玉やお小遣いをもらえるようになり、徐々にお金に触れ始める時期です。そ

のような段階から、楽しみながら『お金の向き合い方』を考えてもらいたい。『あきぎんワクワク探検隊』が、そのきっかけの1つになればうれしいです。そして、子どもたちがもう少し大きくなった時に、自発的にお金の金融の知識を身につけたいと思えるような環境を作っていくために、これからも尽力していきます」と話しています。

大学と連携し、金融教育の浸透と、未来の担い手育成を行う！～横浜銀行「おかねの教室」～

～内閣府特命担当大臣賞を受賞！「はまぎん おかねの教室」～

横浜銀行は、キャッシュレス化の進展による金銭管理の重要性の高まりや、学習指導要領の改訂によって学校教育に金融教育が多く盛り込まれたこと等を踏まえ、コロナ禍で人的・社会的行動が制限される中、オンラインでの金融教育の機会を提供すべく、2020年5月、同行の金融教育プロ人財を中心に、ウェブサイトや動画コンテンツの作成に着手しました。

教育現場で利用されることを想定して、学校や教職員が使いやすい構成・内容とすることを第一の目標として作業を進め、2020年12月にできあがったのが「はまぎん おかね

の教室」 (<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/index.html>) です。

おかねの教室のウェブサイトには、子どもから大人まで幅広い世代が気軽に見られる短い動画やお金に関するクイズのほか、教職員が授業で使える指導案、ワークシート等が掲載されています。2023年には、教員が教育現場で実際に使用した結果等を基に選出される消費者教育教材資料表彰において、銀行として初めて、最優秀の内閣府特命担当大臣賞を受賞しています。

こどもも大人も、いつでもどこでも学べる！はまぎん おかねの教室

おかねの教室では、家庭でも楽しみながら金融や経済を学べるコンテンツが紹介されています。親しみやすいキャラクターが「おかねって何だろう?」、「おかねは何のために必要な?何のために働くの?」という疑問を解説するアニメーション動画や、親子で挑戦できる年齢層別クイズ「おかねけんてい」を通じて、親子でお金

に関する基礎知識を身に付けることができます。

さらに、「おこづかいちょう」のように、毎月の収支目標の設定、お金の使い方の振り返りなどを通じて、家計管理能力を自然と身に付けられるツールも掲載されています。皆さんも、久しぶりに「おこづかいちょう」をつけてみてはいかがでしょうか？



▲ はまぎん おかねの教室 (<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/index.html>) より。

～横浜国立大学と連携した「おかねの基礎教育」の実践～

横浜銀行は、2023年から、横浜国立大学で銀行独自のメソッド「おかねの基礎教育」の授業を展開していたのですが、2024年3月には、そのような取り組みを発展させるべく、同大学との間で、「金融教育に関する連携協定」を締結しました。

連携協定は、「おかねの基礎教育」の附属学校等での授業実践の習慣化、同大学の教育学部・教職大学院での金融教育の「担い手の育成」、モデル授業として県内・全国への波及を行っていくことなどを目指しています。これを踏まえ、横浜銀行は、2024年度の1年間で、同大学の大学生や

附属小中学校の生徒延べ3,150名に対して、金融教育を実施しました。

例えば、附属小中学校の授業では、動画とワークを織り交ぜながら、生徒が自身の生活を振り返りつつ、「おかねの価値」を学べるようにしています。また、教育学部の大学生向けには、金融教育の担い手育成の観点から、学校教育における金融教育の必要性等も伝えながら、「将来の先生」と「いち学生」という2つの視点で聴講してもらっています。このように金融教育の授業では、場面場面に応じて相応しい説明を行うように心がけているとのこと。



横浜銀行の金融教育の授業、評判はどう？ — 受講者アンケートから

- 金銭管理と言われると少し難しそうで、まだ中学生だからと知ろうとしたことはありませんでした。ですが今回の講義で、金銭管理は思ったよりも簡単で、習慣化してしまえば苦にならないし、自分にとってプラスに働くことが分かりました。【中学校3年生】
- お金とはただ増やすものではなく、「人生に寄り添う、便利な道具」という認識を持つことが重要だと思いました。また、小学生や中学生のうちからお金について学び、今後の人生をより良くするための術を知っておいてほしいと強く思い、授業にうまく取り入れられるようにしたいと考えました。【教育学部生】
- 子どもにとって少し難しいかなと勝手に大人側が思っていただけで、小学3年生でも消費、投資、浪費をしっかり理解できることが分かり、反省しました。【現役の教員】
- これからの子どもの学びは、学校だけで閉じたものではなく、実生活や社会生活を豊かにするものでなければなりません。この点は、金融教育のねらいにも共通するものがあると感じた。学校できっかけづくりの授業をして、懇談会などで保護者にも意義を伝え、家庭の取り組みに繋げていくこともできそうだった。【現役の教員】

このほか、動画や教材を使った授業の内容、先生や学生の声等は、おかねの教室「授業実践ナビ」でもご覧いただけます (<https://www.boy.co.jp/boy/brand/okane/navi/index.html>)。



▲ はまぎん おかねの教室より。

～金融教育のさらなる浸透に向けて～

横浜銀行は、横浜国立大学との連携以外にも、東京証券取引所と連携した講義や社会人向け動画等の作成、神奈川県教育委員会主催の県立高校146校への教員セミナーの実施、教員と共同した授業開発、公務員向けや地域コミュニティでのワークショップの開催などを行っています。

横浜銀行の担当者は、「当行の金融教育の取り組みが、当初想定以上に普及・拡大していて驚きもありますが、とて

もうれしいです。金融教育を受けることが当たり前の社会になれば、人々の生活も豊かになります。生活水準が向上すれば、よりよい社会に繋がっていくでしょう。われわれは、おかねの基礎教育の推進・拡充とブラッシュアップを進めることで、よりよい社会の実現に向けた手助けをしていきます」と話しています。

多くの人に金融教育の機会を！～北陸銀行「J-FLECとの共催セミナー」等～

～金融教育の受講者数2万人を実現する！～

将来を担う子どもたちや学生だけでなく、社会人向けセミナーも、全国各地で行われています。

富山県に本店を置く北陸銀行は、2022年4月～2025年3月の3年間を対象とした中期経営計画「Go forward with Our Region」において、金融経済・SDGs関連教育の受講

者数を累計2万人とする目標を掲げています。その実現に向け、北陸地域全域で、地元企業への出張セミナーや、大規模会場等での社会人向け金融セミナーを活発に開催しています。

～地銀初！金融経済教育推進機構（J-FLEC）との共催セミナー～

北陸銀行は、2024年10月、地方銀行として初めて、金融経済教育推進機構（以下、J-FLEC）との共催で社会人向け金融セミナーを開催しました。

共催セミナーの演題は、「将来に向けて知っておきたいお

金の話」。

若年層から高齢層まで幅広い年齢層を対象に、J-FLECの認定アドバイザーから、家計の現状把握、資産形成の考え方、資産寿命の延伸、相続・贈与まで、幅広い内容につい

て、資料にないエピソードを交えつつ、講演いただきました。講演時間が90分、テキストは80頁弱とボリュームが多かったこともあり、参加者の反応が不安だったとのことですが、参加者アンケートでは、「具体例を交えて話をしてくれて分かりやすかった」、「お金との向き合い方について、とても参考になった」との声が多く寄せられたとのこと。

J-FLECは、法律に基づいて設立された認可法人であり、共催セミナーでは、銀行の商品やサービスに関する説明を行うことはできませんが、北陸銀行の担当者は、「チラシでも、商品・サービスに関する説明を行わないと記載していたので、県・市の職員や教職員を含め、地元の方々は安

心して共催セミナーに参加できたのではないかとしています。



▲ 北陸銀行提供。

金融経済教育の専門組織・J-FLEC

金融経済教育推進機構（通称：J-FLEC）は、「金融サービスの提供及び利用環境の整備等に関する法律」に基づき、2024年4月に設立された認可法人です。日本銀行が事務局を務める金融広報中央委員会、全国銀行協会、日本証券業協会が発起人となり、「お金の知識をあなたの力に」をキャッチフレーズに、幅広い年齢層に向けた金融経済教育の提供や、専門家（認定アドバイ

ザー）による家計管理や生活設計、資産形成等のアドバイス等を行っています。

参考URL：<https://www.j-flec.go.jp/>



～お金について『長い目で見る』ことができるように！～

北陸銀行は、若者を含む幅広い世代に金融教育を受けてもらいたいとの思いから、ウェブサイトの改修や、職域でのセミナー、さらには、大型ショッピングモール内の「ママさん向けのマネーセミナー」の開催など、様々な企画を打ち出しています。

例えば、「ママさん向けのマネーセミナー」は、富山市の大型ショッピングモールで、託児所スタッフが子どもの面倒を見ている間、母親向けに資産形成について説明するものですが、SNS等での情報発信だけでなく、ママさん同士のネットワーク（つまり、口コミ）で評判が広がって申し込みに繋がるなど、手応えを感じているそうです。

北陸銀行は、金融リテラシーの有無・高低や、性別、年代にかかわらず、それぞれにふさわしいチャネルと方法を利用することで、なるべく多くの方に金融教育を届けたいとしています。

同行の担当者は、「例えば、手元に1万円があると想像してください。その1万円をその場限りで浪費してしまうのか、それとも、毎月コツコツと積み立てていくかによって、その人のその後の人生は変わってくるはず。長い人生、お金についても『長い目で見る』ことが大切です。そのような見方をできる人が1人でも増えるように、われわれも努力していきます」と語っています。

おわりに

全国の地方銀行は、規模の大小やお客さまの年齢層を問わず、様々なところで金融教育を行っています。今回紹介した事例は、そのごく一部に過ぎませんが、「地域の方々の暮らしを豊かにしたい。そのための手助けをしたい」という想いは、全ての地方銀行に共通しています。

過去の自分の行動を振り返り、現在の自分の状況を冷静に

見つめ、未来の自分のありたい姿を具体的に想像する。そのためにも、お金との正しい付き合い方を身につけることが重要です。地方銀行は、そのためのイベント・セミナー等をご用意して、皆さんをお待ちしています。はじめの一步、踏み出してみませんか？

こちらのレポートはいかがでしたか？ぜひ、ご意見・ご感想をお聞かせください！ ▶▶▶

クリック or

